

【総務環境常任委員会】

- * 「和光市地域公共交通計画」は 2026（令和 8 年度）までのもので 2027 年から実施する内容を検討する段階
- * 「エリア中心」でなく、「人中心」の考え方に
 - ①バス停から 300 メートルの考え方は「エリア中心」で疑義がある。
 - ②全ての人を考える、子供から高齢者、健常者や障がい者等々と考えて対策する。
 - 一案 タクシー利用補助制度も高齢者二期案で検討
 - ③循環バスでは困難な空白地域対応、本数の増便評価。
- * MaaS や自動運転で理想的な市内公共交通を目指すと同時に、現在出されている要望も解決していく
 - ①良くする会会報 2020 年 4 月号には「MaaS の資料」掲載、研究開始
 - ②市に自動運転ヒアリングを翌年 2021 年 9 月に実施（会報に報告）
 - ③これまで 7 億以上の費用をかけている自動運転をやめるわけにはいかない。
 - ④スケジュール通り行けば泥沼。概算費用の総額は。
 - ⑤即時に必要な「循環バスの毎年改善」と「タクシー利用補助制度の実施」等で「全ての市民の支援」は優先的に進める必要がある。
 - ⑥路線バスの現状を考え、タクシー業界の現状も考え、安心できるライドシェアの研究等を勧めることが重要。
 - ⑦シェアサイクルの活用と同時に、自転車安全対策の施策を。（学校などでの指導、大人の交通安全啓蒙、道路標識改善等信号に歩行者と自転車の標記等見直す等警察と協議要望。
- * 公共交通政策は画期的。道路安全課と公共交通室両課で関連付けられている。循環バスの今後の課題として道幅拡幅、上谷津通り狹隘課題等、道路整備につなげることが肝要。
- * 個別でなく全体的発想の施策が大事である。市の説明会は、市民の意見発言で終了してしまう。今後問題意識を持つ市民からの実質的な提案は採用する担当課の力量が要望される。総合的に循環バス施策は合格点である。
- * 自動運転は合格点にはいかない。理由は市民目線がない。原点回帰し和光市全体構想の中で進めることが肝要。

- ①大きな観点で議会で議論が必要。自治体でアイデアを出すことが期待される。
- ②先進事例を参考に国への提言等可能。狭隘化問題解消に公共交通政策波及効果が期待される。
- ③公共交通政策の枠組みと理念、交通弱者対策をリンクし移動手段や個別事情を視点に加えて別立てで明確にしていく。

- * 循環バスの問題点として運転手不足が挙げられる。長時間過密労働、経済的支援の問題等、事業者により体力差顕著。中小事業会社弱いことが懸念材料。
- * 市民の意見を施策に反映。大阪市金剛バスは路線バス休業している。解決は独立事業会社の運動では解決困難。地方行政、国の政策が必要。路線バスの廃業は当該地域の市民が困惑する。改善の施策必要。市民と行政と議会が交通事情の背景を理解し3機関が連動することで当事者が知見を深める運動論を提案する。
- * 5路線になり循環バスの性格が変化した。循環バスの役割の理解が詰まっていない。循環バスと路線バス議論が整備されていない。

- ①公共施設のアプローチが循環バスの使命。通勤者、交通弱者、高齢者を念頭にコンセンサス必要。議会と執行部が共通認識を持ち市民団体と協議。困難な状況を打開する努力が必要。

- * 路線バスと循環バスの違い

- ①循環バス 病院経由等公共施設利用が目的。目的使途が違う。公共サービスの位置づけ。

- ②公共交通会議に意見を提示する齟齬にされることに憂慮ができない。

- * 公共交通の討論・討議。また地元国会議員と協議が必要。長野・塩尻市レベル4認可され実装へ進んでいる。和光市の自動運転の目指す点と理解。
- * 公共交通は誰もが自由に移動することが使命。既存の自動運転は観光地が多い。和光市は観光の点では弱い。自動運転振興は行場所、道路の拡幅の課題が焦点。狭あい道路、坂道の進行が可能な自動運転。介護予防、交通弱者、移動が困難な方々等大事な視点。75歳以上の移動の手段維持も課題。

- ①人とのコミュニケーション不足、黙食等施設での生活は孤独の問題あり。誰もが楽しめる街を志向することが大事。

* 循環バスに乗降客ほとんどいなく空気ばかり運ぶ危惧を持つ。採算は考慮されているのか。

【例外】議員間討議は要検討中か。市民に約束しながら15年経つ。現任期中に導入要請。秘密会でなく議事録残すことを要望。議事録に休憩多い。

* 自動運転の第二次実証スタートする。道路拡幅等今後市内全域にどう活かすか、また南口からの和光市南地域発展の施策が問われる。

①循環バスは公共施設をつなげる目的。乗り換え可能なシステムが今後稼働すること期待。

②マイクロバス11人乗りが利用を増加すること期待。福祉の里、勤労センターのアクセス懸念。

③五小から白子3丁目の循環バス空白区の交通事情改善が課題。デマンド交通の整備課題。出不精、高齢化対応が今後の課題

④自動運転は可能性が期待できる。運行区間制限は今後の日常生活に便宜を図ること。現在の2車線化必要か要検討必要。

⑤自動運転（11人乗りマイクロバス乗車定員）運行では道路の拡幅と整備が課題。